

令和3年度 長崎県立西彼農業高等学校

学校評価表

教育方針	長崎県教育方針に基づいて、高等普通教育と農業・家庭に関する専門教育を施し、専門的知識や優れた技術を身に付けさせるとともに、豊かな自然を守り、命の尊さや個人の尊厳を重んじ、公共の精神を身に付け、我が国や世界の平和と発展に貢献しようとする調和のとれた人間を育成する。
学校教育目標(目指す人間像)	(1) 高い志を持ち、創造性豊かな自立した人間を育成する。 (2) 命を重んじ、心優しくたくましい人間を育成する。 (3) 郷土及び国家を担う責任を自覚し、その形成と発展に主体的に参画する人間を育成する。 (4) 我が国と郷土の伝統・文化や自然を誇りに思い、これからの国際社会を生きる人間を育成する。
本年度の努力目標	(1) 学力向上と朝の読書への取組を推進し、授業規律の確立と家庭学習の定着化を図る。 (2) 基本的生活習慣を確立させ、規範意識の高揚と生徒指導の充実を図り、暴力の根絶といじめ防止に努める。 (3) 資格取得やインターンシップを推進するとともに、就職・進学・農業自営に対応した進路指導及びキャリア教育の充実を図る。 (4) 道徳教育により優しい心を、人権教育により自分を大切にし他を思いやる心を育てるとともに、ユニバーサルデザイン等による特別支援教育の充実を図る。 (5) 体育・文化・専門部活動や農業クラブ活動及び各種コンテスト等に積極的に参加、出場、出場、挑戦させ、生徒の自主性を養い、成功体験により自信と誇りを持たせる。 (6) 美しく、環境に優しい学校作りに努めるとともに、ボランティア活動を推進し、命を大切にすることを育てる。 (7) 教職員自らが研修・研究に努め、各々の専門性を磨き、「分かる授業」を推進し、体罰のによらない指導を徹底する。 (8) 地域の多様な人々との協働を通して故郷への愛着や誇りをもつために「ふるさと教育」の充実を図る。

※「評価」の各学期の欄に、下記の4～1の評価を記入してください。

4:十分達成できている

3:おおむね達成できている

2:どちらかというと達成できていない

1:ほとんど達成できていない

【評価分野】 1 学校経営								
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題
学校教育目標	教育目標(目指す人間像)の明確化	教務	学校教育目標を学校内外に明確に示し、90%以上の保護者がその目標を理解してもらうことを目指す。	・育友会総会、評議員会で説明する。 ・「西農だより」やHPを使って広報に努める。	教育目標を理解している保護者が90%以上であった。	4	○	西農だよりの月1回の発行やHPの更新など積極的に行い、学校の様子を広めることができた。
					教育目標を理解している保護者が80%以上であった。	3		
					教育目標を理解している保護者が70%以上であった。	2		
					教育目標を理解している保護者が70%未満であった。	1		
【評価分野】 2 教育活動								
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題
道徳・人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	相談	学校からいじめを撲滅するため、学期毎に年3回の「いじめ・悩みアンケート」を実施し、いじめの早期発見を目指す。	・アンケート結果をもとに、学級担任・学年・生徒指導部と連携しながら該当生徒への面談を実施する。 ・「いじめ・悩みアンケート」の内容を生徒が記入しやすいように工夫する。	計画どおりアンケートを実施し、早期発見に十分効果があった。	4	○	アンケートを実施し、気になる生徒に対して学級担任・相談部で面談を実施した。
					計画どおりアンケートを実施し、早期発見に効果があった。	3		
					計画どおりアンケートを実施し、早期発見に効果があがらなかった。	2		
					計画どおり実施出来なかった。	1		
教育相談	カウンセリングの充実	相談	相談週間を設け相談室を開放し、悩みの相談にのる。	・対象生徒の面談結果をふまえ、生徒・保護者へ適切な指導・助言を行う。 ・心的要因が考えられる場合は、専門医を紹介する。	適切に対応ができ、十分な効果があった。	4	○	相談室利用者は少ないが、個別面談を実施した。
					適切に対応ができ、おおむね効果があった。	3		
					適切に対応が十分にできず、効果もあまりみられなかった。	2		
					適切な対応ができなかった。	1		

評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題		
進路指導	進路指導の充実	進路	生徒一人ひとりの進路実現を図り、1月末の進路決定率90%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年生は、学期に1回の進路調査を行う。進路セミナー・ガイダンスを開き啓発に努める。 ・3年生については、定期的に担任会を開き、進路検討を行う。 ・きめ細かい個人面談、添削指導を行う。 	計画どおり実施し、進路決定率90%以上を達成した。	4	○	進路調査の回数や進路セミナーなど達成できなかった。		
					計画どおり実施し、進路決定率85%以上を達成した。	3				
					ほぼ計画どおり実施したが、進路決定率が80%以上であった。	2				
					計画どおり実施できず、進路決定率が75%未満であった。	1				
		進路	3年間で1つ以上の資格を取得した生徒が80%以上になることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校あげて漢字検定に取り組ませる。 ・専門分野については、必ず1つは資格取得を目指す。 	1つ以上の資格を取得した3年生が80%以上であった。	4			○	資格取得に向け、努力する姿がみられた。
					1つ以上の資格を取得した3年生が75%以上であった。	3				
					1つ以上の資格を取得した3年生が70%以上であった。	2				
					1つ以上の資格を取得した3年生が70%未満であった。	1				
特別活動	読書活動の推進	図書	図書の貸出冊数が生徒一人当たり5冊以上になることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書便りを二ヶ月に1回発行し、広報活動に努める。 ・計画的な図書購入を行い、図書の充実を努める。 	生徒一人当たりの年間貸出冊数が4冊以上であった。	4	○	2学期までは図書館利用者・貸出数ともに多かったが、3学期は昼休みの利用がほぼできず、貸出数も減少した。		
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が3冊以上であった。	3				
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が2冊以上であった。	2				
					生徒一人当たりの年間貸出冊数が2冊未満であった。	1				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒指導	遅刻者数を昨年度より、30%以上減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会時に「時間厳守」の重要性について指導する。 ・学期初めの1ヶ月半、全職員における登校指導を行う。 ・遅刻常習者については、担任、生徒指導部と連携して個別に指導を行う。 	遅刻者数が昨年度より30%以上減少した。	4	○	学期のはじめには生活リズムが崩れている生徒が遅刻することがあるが、おおよその生徒は学校生活全般において時間を意識して生活できている。		
					遅刻者数が昨年度より20%以上減少した。	3				
					遅刻者数は昨年度とほぼ同じであった。	2				
	社会的規範意識の涵養	生徒指導	品位ある服装を指導し、90%以上の生徒が高校生らしい服装をしていることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・服装、頭髪検査を学期に1回行う。 ・職員の意思統一を図るために、研修会を毎月行う。 ・校則違反については、イエローカード指導を徹底する。 	高校生らしい服装をしている生徒が90%以上であった。	4	○	ほとんどの生徒が基準にのっとった服装で生活できている。		
					高校生らしい服装をしている生徒が80%以上であった。	3				
					高校生らしい服装をしている生徒が70%以上であった。	2				
					高校生らしい服装をした生徒が70%未満であった。	1				
	社会的規範意識の涵養	農務	あいさつ・時間を守る行動・自ら考えて行動ができる生徒が90%以上になることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・始業時間を守らせる。授業時に実習服の着用指導する。 ・実習時考える習慣を身につけさせ、自主的に活動できるようにする。 	時間を守り自ら考え行動する生徒が90%以上であった	4	○	実習等、更衣をしなくてはならないのにも関わらず、始業時間を守り真面目に取り組んだ。		
					時間を守り自ら考え行動する生徒が85%以上であった	3				
時間を守り自ら考え行動する生徒が80%以上であった					2					
部活動	部活動の活性化	農業クラブ	部活動の活性化と定着化を図るため、全校生徒の活動率80%以上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には、部活動の意義や目的、継続の意義を理解させる。 ・部活動調査を定期的に行い、体育部・文化部・専門部の活性化を図る。 	部活動活動率が90%以上であった。	4	○	部活動の活動日にはきちんと参加している。		
					部活動活動率が80%以上であった。	3				
					部活動活動率が70%以上であった。	2				
					部活動活動率が70%未満であった。	1				
生徒会活動	生徒会活動の充実	農業クラブ	農業クラブ活動を理解させるため、各行事、大会の案内、報告を毎月1回掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒玄関の掲示板や、外掲示板を活用し、生徒へ情報を発信する。 ・生徒の主体的活動を促し、農業クラブの活動内容を積極的に広報する。 	月1回の掲示ができ、広報内容も充実していた。	4	○	校内の活動内容の広報掲示が不十分であった。次年度は県連事務局校となるため、積極的な情報発信を行い広報活動に努めたい。		
					月1回の掲示はできたが、広報内容が不十分であった。	3				
					月1回の掲示ができず、広報内容が不十分であった。	2				
					計画的な掲示ができず、広報内容も不十分であった。	1				

評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題	
健康教育	健康教育の推進	保健	基本的な生活習慣を見直し、毎日朝食を摂る生徒が90%以上になることを目指す。	・生徒向けに学期1回、保護者向けに年1回のアンケートを実施し、生徒の朝食の摂取状況を調査する。 ・保健だよりやポスターで意識の向上に努める。	毎日朝食を摂る生徒が90%以上であった。	4		・目標の90%は達成できなかった。2割以上の生徒が毎日朝食を摂っていないため、食事の必要性(特に朝食)については、今後もしっかりと意識づけをしていく必要がある。	
					毎日朝食を摂る生徒が80%以上であった。	3			
					毎日朝食を摂る生徒が70%以上であった。	2	○		○
					毎日朝食を摂る生徒が70%未満であった。	1			
環境教育	環境教育の推進	環境美化	環境教育を積極的に推進するため、教室の整理整頓及びゴミの分別を徹底させる。	・毎日の取り組みとして、①掃除をはじめに美化・生活委員が教室等のゴミ箱の点検を行う。②ゴミは掃除担当等の生徒が、すぐゴミステーションへ持って行く。③美化委員がゴミステーションでのゴミの分別を行う。	充分できた。	4		クラスでの分別ができてないクラスがあり、大変な時があった。	
					だいたいできた。	3	○		○
					あまりできなかった	2			
					できなかった	1			
教科指導	専門教育の充実	農務	インターンシップを全学科で実施し、学科の専門性を高める。	・事前指導の徹底を行う。 ・生徒に日誌に記入をさせる。 ・学科で巡視を行い、充実した実習が行えるようにする。 ・終了後生徒にアンケート調査を行う。	企業の生徒評価A以上が80%以上であった。	4	/	今年度は中止	
					企業の生徒評価B以上が80%以上であった。	3			
					企業の生徒評価B以上が70%以上であった。	2			
					企業の生徒評価B以上が60%以上であった。	1			
専門教育	資格取得の充実	農務	・3年間で1つ以上資格取得した生徒が90%以上になることを目指す。	・専門の授業の中で資格取得の大切さを教え、取得に向けての指導を各科目で行う。	1つ以上の資格を取得した生徒が90%以上であった。	4	/	ワープロ検定や家庭科技術検定、農業系の検定、漢字検定など全体的に検定の取り組みはよい。	
					1つ以上の資格を取得した生徒が80%以上であった。	3			
					1つ以上の資格を取得した生徒が70%以上であった。	2			
					1つ以上の資格を取得した生徒は60%以上であった。	1			
【評価分野】 3 組織運営									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題	
校内研修	教職員の資質向上への取組み	教務	教員の教科指導力を向上させるため校内研修を実施し、「わかる授業」を展開する。	・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・校内研修を実施し、授業の改善を図る。	計画どおり実施でき、充実した内容であった。	4	/	○	授業評価については計画どおり実施でき、まずまずの内容であった。校内研修についても、次年度に向けた評価基準の研修も計画どおり実施できた。
					計画どおり実施できたが、まずまずの内容であった。	3			
					計画どおり実施できたが、十分な内容ではなかった。	2			
					計画どおり実施できず、不十分な内容であった。	1			
【評価分野】 4 教育環境									
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題	
学校環境の整備	学校環境の美化	環境美化	校舎内外の美化を徹底する。各学期に3回以上の大掃除をする。	・大掃除のときに、毎日行っている掃除で出ていないところを中心に取組みませ、美化委員に点検させる。	充分取り組んでいた。	4	/	○	イベントの前に大掃除があったことで、普段できない場所もできたことがよかった。
					だいたい取り組んでいた。	3			
					あまり取り組んでいなかった。	2			
					取り組んでいなかった。	1			
施設・設備の管理	学校施設の充実と環境整備	事務	全ての校内敷地巡視を月1回行い、危険・不備箇所を早期発見し、迅速に修繕・改修を行う。	・手持ち予算で対応できるものは、1週間後までに修理完了、その1週間後までに支払いを完了し、随時記録する。 ・予算要求を要するものは、1か月以内に予算要求	毎月巡視を行い、全てを修繕・改修できた。	4	/	○	小規模の修理等については、その都度対応してきている。大規模なものなど、すぐに対応できないものは引き続き予算要求を継続していきたい。
					毎月巡視を行い、予算要求中以外は改修・修繕できた。	3			
					毎月巡視は行ったが、改修・修繕できなかった箇所がある。	2			
					毎月の巡視が行えず、改修・修繕できなかった箇所もある。	1			

【評価分野】 5 開かれた学校づくり								
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題
保護者との連携	育友会活動の充実	教務	学校の教育活動に対する保護者の理解を深めるため、積極的に情報を発信し、三者面談、育友会、活動への出席率75%以上を目指す。	・育友会活動への参加を呼びかける。 ・メールメイトを活用して早期に案内を行う。	育友会活動と三者面談への平均出席率が75%以上であった。	4	○	三者面談についてはほぼ100%の出席であった。また、コロナ禍でもあり、メールメイトの活用は積極的に行った。
					育友会活動と三者面談への平均出席率が65%以上であった。	3		
					育友会活動と三者面談への平均出席率が55%以上であった。	2		
					育友会活動と三者面談への平均出席率が45%未満であった。	1		
情報提供	情報提供の充実	情報管理	学校の教育活動・地域連携等の情報をHP上で月5回以上発信する。	・学校の教育活動において行事ごとに情報を発信する。 ・地域連携等の情報を積極的に発信する。	HPを月5回以上発信し更新できた。	4	○	新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な行事や大会が中止・変更になるなか、それぞれに工夫をしながら教育活動の様子をHPを通じて紹介することができた。一昨年よりも、行事等の実施は増えたものの、育友会や地域連携の活動が少なかったため、次年度は、積極的に連携して情報を発信していきたい。
					HPを月4回以上発信し更新できた。	3		
					HPを月3回以上発信し更新できた。	2		
					HPを月2回以上発信し更新できた。	1		
地域貢献	専門教育の地域貢献	農務	農業高校の教育力を示すため、県立学校地域開放講座で、参加者の満足度90%以上を目指す。	・最終日に受講者アンケートを実施する ・担当科目の専門性を高め受講者が満足のいく教材を準備する。	大変に満足したの割合が90%以上であった。	4	○	感染症の心配がある中、積極的に参加していただいた。4回実施を計画していたが、3回の実施となった。参加者は大変満足されていた。
					大変に満足したの割合が85%以上であった。	3		
					大変に満足したの割合が80%以上であった。	2		
					大変に満足したの割合が75%以上であった。	1		
		農務	専門分野で生徒の農産物生産及び加工品製造を活用し、地域貢献をはかる	・農産物生産、製造実習では、商品販売を意識した実習を行う。 ・授業で生徒の理解度を深める。	活動が十分取り組めた。	4	○	西市市役所での販売会を初めて行った。予想以上に好評であった。生徒も外部での販売を経験し、達成感を感じていた。
					活動がほぼ取り組めた。	3		
地域の農業高校としての存在価値	西海市と連携した研究活動の推進	農務	西海市と連携した草花・動物物の活動を行う。	・各分野で希少植物の保護・移動動物園・草花の植栽活動などの活動計画を立て、西海市に貢献できる活動を行う。	充実感、達成感を感じた生徒の割合が80%以上活動が地域に貢献し	4	○	希少植物の繁殖など行ったが、外部との連携が十分でなかった。
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が70%以上活動が地域に貢献し	3		
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が60%以上活動が地域に貢献し	2		
					充実感、達成感を感じた生徒の割合が50%以上活動が地域に貢献し	1		
【評価分野】 6 生徒の教育成果								
評価項目	具体項目	担当	目標	具体的方策	評価基準	中間	総括	成果と課題
学力の定着・向上	家庭学習の定着	1年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が50%以上になることを目指す。	学習時間が1時間未満の生徒および補講が必要な生徒は、次回の考査前に放課後残して学習会を開き最低1時間学習させる。	1時間以上学習した生徒が50%以上であった。	4	○	考査前の学習時間については、多くの生徒が1時間以上の家庭学習に取り組んでいた。しかし、平常の学習時間に関しては、30分以内の生徒も多く、家庭学習の習慣化が十分ではなかった。放課後学習会については、生徒の状況に応じて、個別に対応した結果、欠点者の減少など成果が見られた。
					1時間以上学習した生徒が40%以上であった。	3		
					1時間以上学習した生徒が30%以上であった。	2		
					1時間以上学習した生徒が30%未満であった。	1		
		2年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が70%以上になることを目指す。	学習時間が1時間未満の生徒および補講が必要な生徒は、次回の考査前に放課後残して学習会を開き最低1時間学習させる。	1時間以上学習した生徒が70%以上であった。	4	○	考査前の学習時間の確保はできつつあるが、平常時の学習時間の確保は十分とはいえない。課題の消化状況が思わしくない特定の生徒がおり今後の課題と考える。ただ、農業技術検定試験はよく頑張れ、合格率はS科71%D科は8名全員合格の100%で成果が上がった。
					1時間以上学習した生徒が60%以上であった。	3		
					1時間以上学習した生徒が50%以上であった。	2		
					1時間以上学習した生徒が50%未満であった。	1		
		3年	定期考査前1週間において毎日1時間以上学習させる。毎日1時間以上学習する生徒が80%以上になることを目指す。	学習時間が1時間未満の生徒および補講が必要な生徒は、次回の考査前に放課後残して学習会を開き最低1時間学習させる。	1時間以上学習した生徒が80%以上であった。	4	○	学年末考査に向けほとんどの生徒が学習時間の確保に努め、欠点なく卒業を迎えることができた。
					1時間以上学習した生徒が70%以上であった。	3		
					1時間以上学習した生徒が60%以上であった。	2		
					1時間以上学習した生徒が60%未満であった。	1		